

## 研究主題

学び合いを通して、自他のよさに気づき 豊かな生活を創りだす子ども

## 主題設定の理由

本校の子どもたちの実態には、次のような傾向がみられました。



- ひとたびやる気を出すと、そのエネルギーはすごい！意欲的、責任感あふれる。
- 明るく、人懐っこい。
- 遊ぶことが大好きで、けんかもあるが、基本的にはなかよしである。



- 自分たちで協力して物事をやり遂げたり失敗を乗り越えたりするたくましさに欠ける。
- 相手の気持ちや立場になって、思いやりたり考えたりすることが苦手である。
- 自信を持って、自分の思いや考えを相手に伝える力が不足している。

私たち自身の指導をふり返り、反省点を次のようにまとめ、研究主題を設定しました。

- ①結果の善し悪しを重視して、教師の計画に子どもを合わせる指導ではなかったか。
- ②授業において、その子なりの思考・判断・表現を生かす場の設定が足りなかったのではないか。
- ③授業と生活を密接に結びつけようとしていたか。授業をすることで、生活が変容することを意識してきたか。

## 研究のねらい

### 1 研究の目的

各教科や道徳等と関連を図りながら、望ましい集団活動を通して、よりよい生活や人間関係を築くとともに、自分らしさを生かすことができる子どもを育てる。

### 2 めざす子ども像

学び合いを通して、自他のよさに気づき 豊かな生活を創りだす子ども

- 低**：仲良く助け合い学級生活を楽しくしようとする子ども
- 中**：協力し合って楽しい学級生活をつくろうとする子ども
- 高**：信頼し支え合って楽しく豊かな学級や学校の生活をつくろうとする子ども

### 3 研究の視点

〈〈よりよい学級・学年経営を核として〉〉

- 視点1：〈生活から立ち上げる議題提案〉**  
日常生活の中から議題を表出させる工夫や教科・道徳等との連携誰のために、何のために
- 視点2：〈相手意識や目的意識を大切にしたい話し合い活動〉**  
自己決定・集団決定（折り合い＝合意形成）の工夫
- 視点3：〈よりよい自分・集団への高まり〉**  
ふり返りの工夫や方法、価値づけ・勇気づけ（次回への意欲の高め方）

## Team 長岡 DCT (Dreams Come True) ～学び合う教師集団～

こんなことを考えて、実践していこうとしています。

教師が笑顔で共感的に子どもの話を聴くこと

議題は、子どもの生活から立ち上げること

指導の過程は、子どもの学びの道すじとして計画すること

子どもが判断し、自己決定することを大切にすること

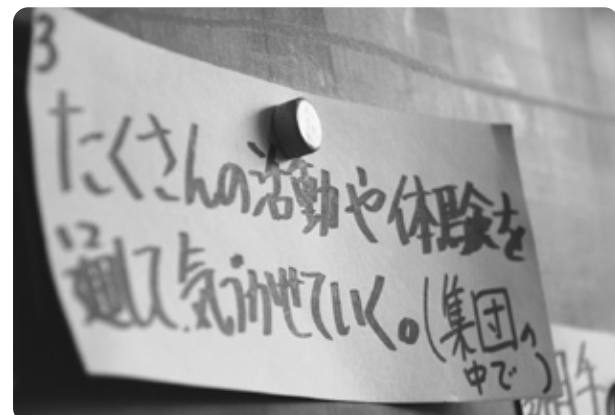


やってよかった、またみんなで仲よく楽しみたいという実感を、低学年から積み上げること

子どもも教師も、自分の考えを言葉にして伝えること、そのための可視化に努めること

子どもも教師も「なすことによって学ぶ」こと、ふり返りを大切にすること

子どもを育てる意識をどの活動にも貫くこと



## 研究 同 人

### 平成24年度

大泉 徹	柏倉 充	高橋 圭子	長谷部 恵	大塚 由実	石川さとみ
竹田 和子	高橋 純子	沼澤 豊	蜂谷 敬子	東海林 仁	沼澤 美佳
青山 弘子	三浦 千恵	柏倉 大樹	軽部 秀明	宮坂 恵子	鈴木 伸治
梅津 扶美	石山 裕	熊谷 薫	片桐ちどり	武田千代司	奥山 健一
青木香代子	遠藤 敦子	山口 初江	鈴木 理恵	荻野万里子	渡辺 広子
片桐 典子	日野くみ子	山口ゆかり			

### 平成23年度

奥山 善仙	小座間真由美	伊藤 一夫	山本 一人	鈴木 定行	相馬 貴子
安達 史子	嶋倉みどり	鎌水 美紀	大地やす子	星川 博美	

これまでの研究の歩みは、本校HP「校内研究」からもご覧になれます。

HPアドレス <http://www.dewa.or.jp/~t-naga01/>

天童市教育委員会委嘱 (H23-24)

## 学び合いを通して、自他のよさに気づき 豊かな生活を創りだす子ども



## みんなで創ろう「よつばストーリー」

平成24年10月19日(金)

## 天童市立長岡小学校

学び合う教師集団

天童市教育委員会 教育長 水戸部 知之

今、子どもたちは少子化・核家族化、地域コミュニティの弱体化、急激な情報化といった社会の変化のもとで、人間関係の希薄化や自然体験・社会体験の不足など様々な難題に直面しています。このような状況において、豊かな人間性や社会性を育成することの重要性がより一層強調されるようになりました。

地域や学校の特色に応じた教育の実現が重視される中、長岡小学校においては、特別活動を中核にした研究を推進しています。学校生活において、学習をはじめとする活動の基盤となるのは学級です。子どもたちが個性と能力を発揮するためには、信頼に満ちた、安心感のある学級集団づくりが大切です。長岡小学校では、子ども一人一人が集団の中で自分の役割を果たしながら、かかわりの価値を実感できるような学級活動を意図的、計画的に実践し、お互いを高め合える教育力のある学級集団に育てることをめざしています。

子どもは集団の中で磨かれてこそ育ちます。その集団が学ぶ意欲に満ち溢れ、互いに高めようとする質の高い集団であれば、一人一人の子どもによりよい育ちが期待できます。それは教師集団にも同じことが言えます。互いに学び合う同僚性の中で、日々、授業づくり、学級経営、子ども理解等について語り合い指導力を高めていくことが、学校研究を推進する原動力になると考えます。

子どもの姿を通して、育てたい力を身につけさせることができたのか否かを常に問いかけ、評価と改善を繰り返しながら、実践を重ねてきた長岡小学校の取り組みに、本日ご参会の先生方とともに学びたいと思います。

最後に、本研究に対し、ご指導・ご協力くださった関係各位へ深く感謝申し上げます。

「チーム長岡DCT」がめざすところ

Dreams Come True

天童市立長岡小学校 校長 大泉 徹

昨今の子どもが関係した一連事件の特徴の一つとして、うまく人間関係が築けないことや所属している集団との関係性が希薄だということなどがあげられます。自尊心の低下や自分自身への自信がもてないような状況があるのかもしれない。

このような中、望ましい集団活動や体験的な活動を通して、個性の伸長を図り、豊かな人間関係を築くとともに、社会性を育むことを図る特別活動は、今まで以上に大きな役割を担うとも言われています。

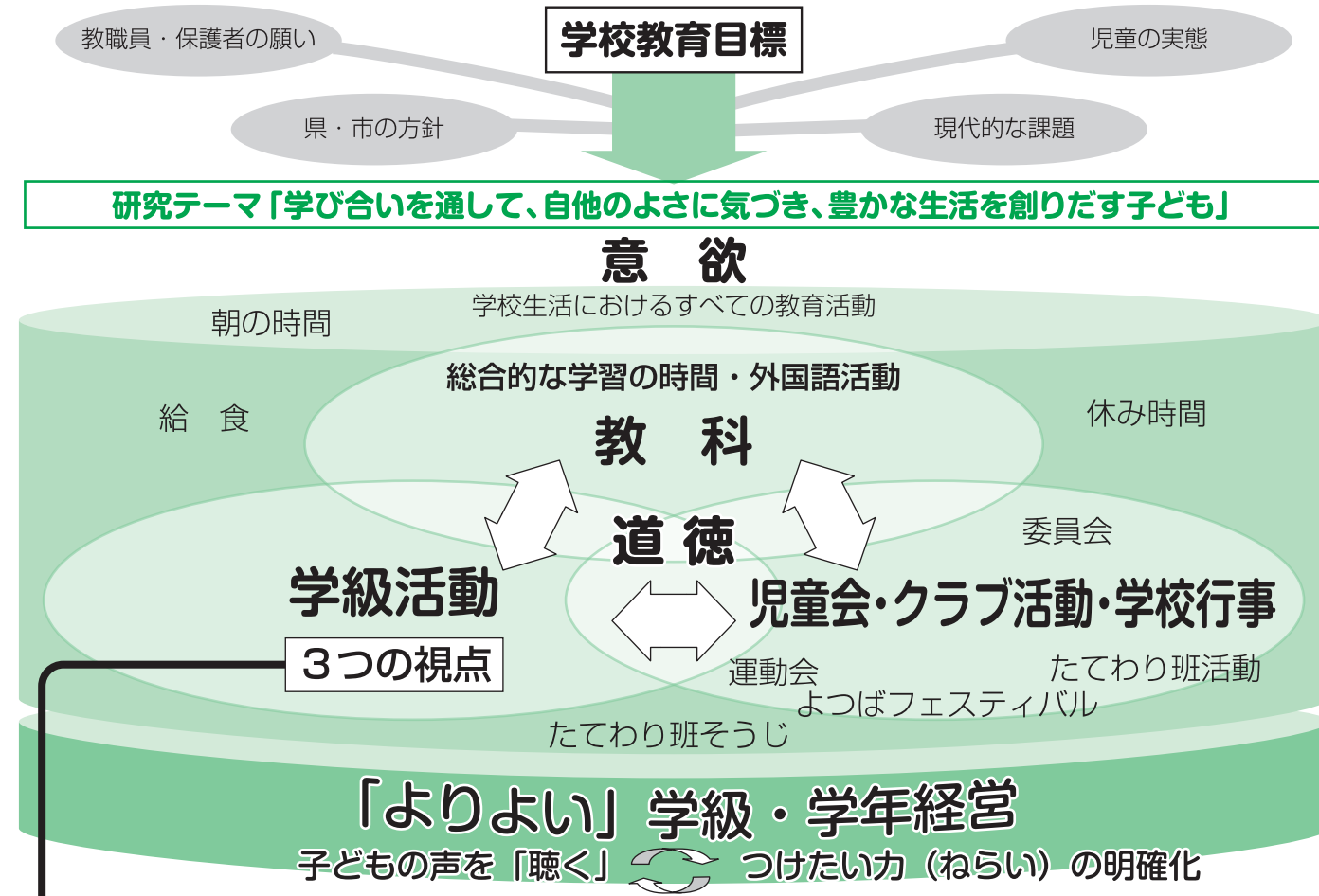
本校では現在、学級活動（話し合い活動）の授業を中心に研究を深めているところです。その中でより自主的実践的な子どもを育てるには、特別活動の領域だけでなく、他教科・領域とも連動させる必要を感じています。為したことを振り返ることや自分の思いや願いを持ち、みんなで考えていく中で、よりよいステージを創ることが実感される授業を日々求めていくことが改めて大切であると考えます。

その上で学級活動の授業では、子どもたちの生活から立ち上がった議題を元に、その子ならではの具体的な事実を語り合い、互いのよさを認め合いながら話し合い活動を展開し、学級生活が豊かになることを期待しているところです。

本日の研究会の学びから研究同人がチームとして高まり、テーマに向かって討議力を高め、子どもたちの願いや思いが叶う学校づくりに更に邁進していきたいと思えます。

最後に、天童市教育委員会の研究委嘱をいただき、山形県教育センター、村山教育事務所の先生方をはじめ、山形大学の野口徹先生、愛知教育大学の久野弘幸先生、各学校の研究協力者の先生方から、本校の研究に懇切丁寧にご指導・ご助言を賜りましたことに心から感謝申し上げます。

# 研究全体構想図



# これまでの実践から

## 4年1組



**「会社活動や係活動をバージョンアップしよう」**  
 係の仕事に加えて、内容を自由に考えられる会社活動の困りごとについて話し合いました。銀行会社の両替の悩みに質問を繰り返して、困りごとをわかってもらう子どもたちに感心しました。子どもたちにとって必要な活動の時間となるよう、授業のねらいをしばり、指導過程を「ほくらの時間（子どもが学ぶ道すじ）」と考え計画することの大切さを学びました。

## 「自分たちのやりたいことを選ぼう」

事前に集約された9つの案の中から、次の学活でやることを話し合いました。「お互いの意見のそれぞれに良さがあり、どれも捨てられず、1つにすることはできませんでした」と白紙状態のグループの説明が共感を呼びました。9つのアイデア全てを生かし、1年間の活動計画としていくことにした子どもたちの自己決定が、とても尊く感じられました。

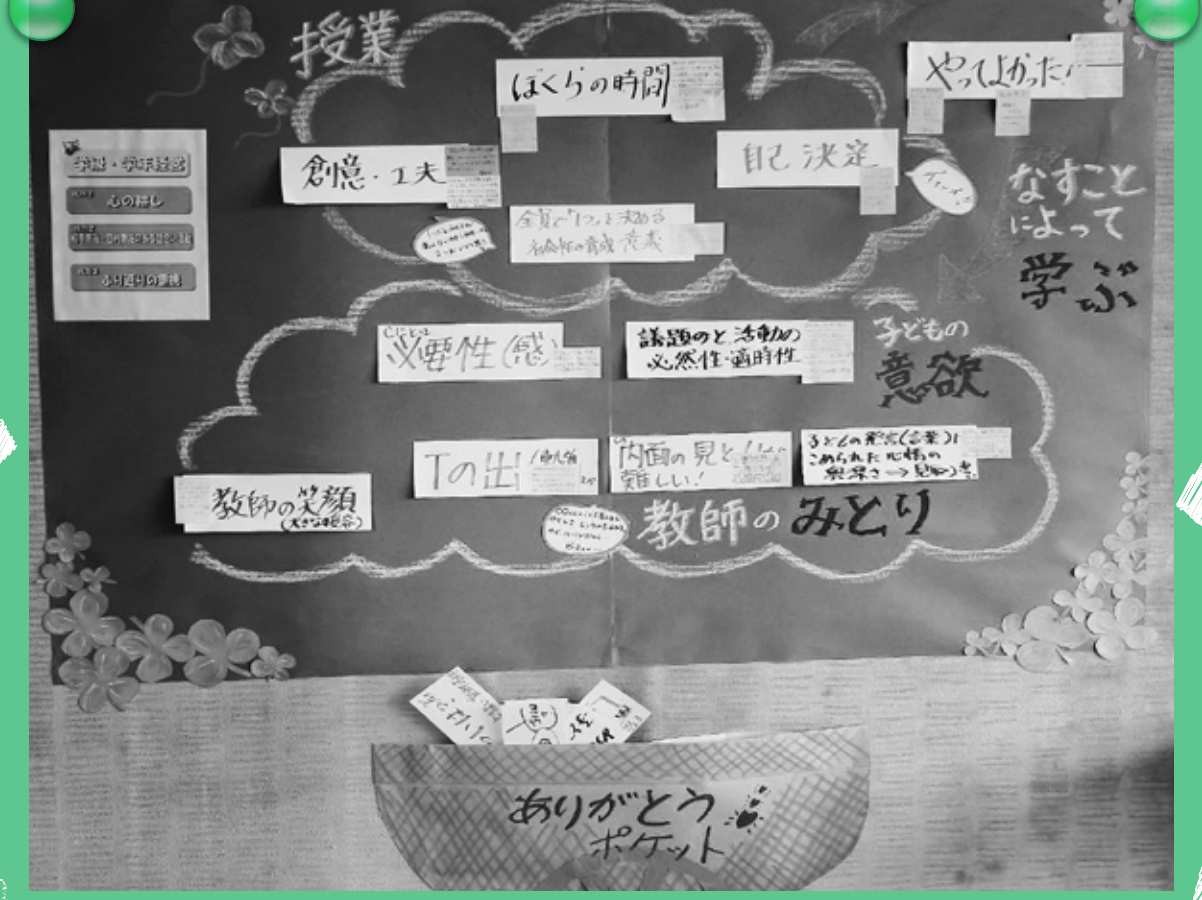
## 6年3組



# 子どもと教師の学び

## 6年2組

**「自分のなりたいリーダーをめざして」**  
 たてわり班を作って1か月。班長としてのやりがいも悩みも抱えたところで、班長のあり方について話し合いました。自分の班のことをふり返り、友だちの悩みに共感しながら、一人一人が当事者として考える姿がありました。議題は、子どもたちが必要を感じたそのとき、子どもたちの生活から立ち上げて行くことの大切さを学びました。



## 1年2組

**「にこにこの2集会をしよう」**  
 学級として初めての集会活動は、転校する友だちとの最後の集会でもありました。転校するK君のために、一人一人がプレゼントを準備し、お別れの言葉を伝えるプログラムを考えました。どの子の思いも担当が受け止め、みんなのK君を思うやささが伝わる温かな集会となりました。やってよかった学級活動は楽しいという実感、相手を大切にすることを学級生活、低学年から積み上げることの大切さを学びました。



## 5年1組



**「全員遊びをふり返り、みんなが楽しめるように考えよう」**  
 全員遊びで楽しんだ鬼ごっこをふり返り、改善していくことを話し合いました。足が遅い子にわざとつかまったりは、優しい行為かルール違反か考えがぶつかりました。話し合いを通して、答えが出ないことや考え方の違いを受け入れていったA子の姿に、自分の考えを言葉にして、伝え合おうと努力することの大切さを学びました。

## 2年1組



**「2の1のマークをつくらう」**  
 学級の合い言葉にふさわしい自分たちの学級のマークについて話し合いました。4つの案から1つを選ぼうと班ごとに話し合っていると、「その考えいいね」「理由の言い方、気に入ったよ」「みんなと話し合って自分の考えがはっきりした」などという子どもたちの声がかえりました。担任が笑顔で共感的に聴くことの大切さを学びました。

## 委員会活動

委員会活動については、学校生活の主体者として子どもたちの自治意識が高まるよう努めています。5年生は、年度末までに6年生を送る会を計画しながら、これまでの委員会活動をふり返り、自分たちの委員会活動・学校生活への夢や願いについて話し合っています。代表委員会では、子ども熟議形式(\*)を取り入れ、どの子も発言できるようにしています。また、その中で出された計画や問題について、学級や委員会で考えたり、



取り組みを全校生にプレゼンテーションしたりすることをしています。これらの取り組みを通して、学校生活を自分たちの手で改善していこうとする意識が少しずつ高まってきています。活動が自主的になればなるほど「時間の確保」が難しくなり、教育課程の編成や見通しを持った計画作りが課題となっています。



\*よりよい学級や学校の生活を築くために、熟考しながら、共同で「話し合い(対話)」を行う活動：文部科学省

## たてわり活動

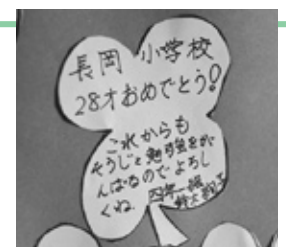
たてわり活動では、異学年と交流することで、それぞれの学年にふさわしい意識や態度が育つことを実感しています。下学年からは、「自分もあんな6年生になりたい。」という声がかえっています。上学年には、うまくいかない悩みももちながら、班長として下学年の期待に応えたいという責任感や優しさ、自分を律する態度が育ちつつあります。イベント的なたてわり活動だけでなく、異学年交流学習なども取り入れて、日常化を図っていくことがこれからの課題となっています。



## 各種式典(入学式や創立記念式など)



儀式的な行事にも、自分がどうかかわっていくかを大事にしています。例えば、入学式では「1年生が喜ぶように大きな声で歌うぞ。」など相手意識や目的意識のあるめあてが見られました。創立記念式では、道徳との関連も図りながら、これから自分ががんばることなど、主体的なめあてを立てて式に臨む姿が見られました。



## 運動会

運動会で子どもたちにどんな力をつけたいのかについて、職員で議論しました。授業づくりと同様「子どもを育てる」ことを確認しました。今年、重点的に取り組んだのは次の4点でした。  
 ① 自分のめあてを大切にしていけるように  
 ② 活動をふり返り、次への見通しをもてるように  
 ③ 自分の思いを言葉で表現していくことを大切にしていけるように  
 ④ 子どもたちの判断・自己決定を大切に



10月19日 金曜日 長岡小